

3.2.2 サイエンス英語②

担当：岡本 圭史

実施時期：平成31年4月～令和2年1月

場 所：本校1405講義室・コンピュータ教室

対象生徒：総合科学系3年次 53名

単位数：1単位

1. 研究開発の経緯と目的

この科目はSSH指定第1期に設置された「理科英語②」の発展として、積極的に英語でコミュニケーションして議論する力を向上させるために設定された理科の学校設定科目である。本年度並行履修している「特別探究②」で作成を進めた課題研究ポスターを英語に翻訳し、英語を使って発表し、その内容について英語で質疑応答ができるようになることを目標として設定した。

2. 仮説

本科目の実践により達成すべき仮説を以下のように設定した。

(仮説1) 難しい専門用語の羅列ではなく、既習の英単語を用いて研究内容を表現することができる

(仮説2) 作成した英語ポスターを用いて、自らの表現でわかりやすく発表することができる

(仮説3) 英語の質疑応答とコミュニケーションを取ることができる

本事業により、育むことができる力は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
仮説	○	○	○		○	○	○

3. 研究内容・方法

本科目は理科と英語科とALT各1名によるTeam Teaching型の科目である。年間指導計画を以下に示す。

4～7月	既習の英単語を用いて、英語ポスターの原型を作成し、添削指導と発表練習・質疑応答練習を繰り返す
8～9月	日本語ポスターの完成に合わせて英語ポスターも最終版として作成し、添削指導を繰り返す
10～11月	質疑応答の練習を行い、神戸市立中学・高校のALTを18名動員した英語ポスター発表会を開催
11～1月	課題研究を2年間取り組んで得た実績・教訓を日本語と英語で作文する

4. 検証

成果を検証するため、6つの力のうちのどれが伸長したかを問うアンケートを実施した。各力が向上したと思うと回答した割合は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
検証	71%	63%	51%	55%	57%	33%	73%

「サイエンス英語①」と比較して、全体的に値が低かった。対象生徒は昨年度の「サイエンス英語①」を受講しており、昨年度の値よりは改善が見られたが、全体的に英語に対する自信がない生徒が多いように見受けられた。英語に対する苦手意識を払拭すべく手を尽くしたが、完全には払拭できなかった。今回の教訓を生かし、より苦手意識を低減する内容も盛り込むべきであると考えます。